

【学校教育目標】「笑顔いっぱいの学校づくり」

～温かい心で認め合い、励まし合い、支え合う子どもの育成を目指して～

鬼塚小学校便り No.4

令和5年5月2日発行

文責 校長 市丸 明彦



モア スマイル



言葉の大切さ

先週の全校朝会で、「言葉の大切さ」について話しました。本校の児童は、「言われて嬉しい言葉や元気になる言葉」を自然にたくさん言っていますが、たまに子ども達の

何気ない会話から、「人を嫌な気持ちにさせる言葉」を耳にすることがあります。

言われて嫌な言葉は、叩いたり蹴ったりする暴力よりも、もっともっと人を傷つけることがあります。そのような言葉を鬼塚小から無くし、誰もが安心して楽しい気持ちで過ごせる学校にしていきたいと思いますと話しました。

私達大人も気を付けたいものです。

また、登校中にゴミを拾ってくれる2年生、毎朝児童玄関を掃除してくれる2・3年生、靴箱がいつもきれいな6年生等を紹介して、全校児童で褒めました。

生活の話では、4年生の「立腰名人」が全校の前で見事な立腰を披露してくれました。毎朝、立腰で学校が始まり、授業の始めと終わり、掃除の始めなど、たくさんの場面で立腰を見かけます、全校の良い取組として、これからも継続していきたいと思えます。



授業参観・学級懇談会・PTA 総会への参加 ありがとうございました

先週28日(金)には、大変お忙しい中に、たくさんの方々にも子ども達の様子を参観していただきました。

コロナが収まり、やっと通常の行事等ができるようになり、フリー参観としていましたので、ご家族の方(祖父母)の姿も見られました。

各学級の授業では、元気に発表して普段以上に張り切っている子や少し照れくさそうに発表している子など様々ですが、私が本校に勤務して強く感じることは、「元気な子が多い」ということです。朝の挨拶もそうですが、休み時間になると外から元気な声が毎日聞こえてきます。

元気があれば、自然と笑顔もこぼれてきます。友達とケンカして嫌なことがあってもすぐに立ち直れます。私たちは毎日、子ども達から元気をもらっています。

これからも、鬼小の子ども達の元気な姿をたくさん見たいものです。

